

## 滋賀ヘルニア研究会のあゆみ

その他の言語のタイトル	The history of Shiga Hernia Society
著者	森 毅, 清水 智治, 寺田 好孝, 加藤 久尚, 坂井 幸子, 竹林 克士, 植木 智之, 三宅 亨, 飯田 洋也, 貝田 佐知子, 赤堀 浩也, 山口 剛, 園田 寛道, 来見 良誠, 花澤 一芳, 谷 眞至
雑誌名	滋賀医科大学雑誌
巻	30
号	1
ページ	46-49
発行年	2017-03-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/00012295">http://hdl.handle.net/10422/00012295</a>



— 実践報告 —

## 滋賀ヘルニア研究会のあゆみ

森 毅<sup>1)</sup>、清水智治<sup>1)</sup>、寺田好孝<sup>1)</sup>、加藤久尚<sup>1)</sup>、坂井幸子<sup>1)</sup>、竹林克士<sup>1)</sup>、植木智之<sup>1)</sup>、三宅亨<sup>1)</sup>、飯田洋也<sup>1)</sup>、貝田佐知子<sup>1)</sup>、赤堀浩也<sup>1)</sup>、山口剛<sup>1)</sup>、園田寛道<sup>1)</sup>、来見良誠<sup>2)</sup>、花澤一芳<sup>3)</sup>、谷眞至<sup>1)</sup>

- 1) 滋賀医科大学 外科学講座 消化器・乳腺・一般外科、  
2) 地域医療機能推進機構 滋賀病院、 3) 日野記念病院

## The history of Shiga Hernia Society

Tsuyoshi MORI<sup>1)</sup>, Tomoharu SHIMIZU<sup>1)</sup>, Yhoshitaka TERADA<sup>1)</sup>, Hisataka KATO<sup>1)</sup>, Sachiko SAKAI<sup>1)</sup>, Katsushi TAKEBAYASHI<sup>1)</sup>, Tomoyuki UEKI<sup>1)</sup>, Toru MIYAKE<sup>1)</sup>, Hiroya IIDA<sup>1)</sup>, Sachiko KAIDA<sup>1)</sup>, Hiroya AKABORI<sup>1)</sup>, Tsuyoshi YAMAGUCHI<sup>1)</sup>, Hiromichi SONODA<sup>1)</sup>, Yoshimasa KURUMI<sup>2)</sup>, Kazuyoshi HANASAWA<sup>3)</sup> and Masaji TANI<sup>1)</sup>

- 1) Department of Surgery, Shiga University of Medical Science,  
2) Japan Community Health care Organization Shiga Hospital, 3) Hino memorial Hospital

**要旨** 近年、鼠径部のヘルニアの手術は、多種多様なメッシュの開発により複雑になってきている。このような状況で鼠径部ヘルニア疾患に関する診療の充実・研究の進歩発展と普及させるため、2003年に日本ヘルニア研究会（2008年にヘルニア学会として再編）が発足した。滋賀県内でも、ヘルニア診療に特化した研究会の設立が企画され、県内の外科医有志により、県内のヘルニア診療の充実を目的とし2007年に滋賀ヘルニア研究会が設立された。

滋賀ヘルニア研究会では、年1回、講演会と参加施設からヘルニア診療に関する一般演題を募り、ヘルニア診療について発表・意見交換を行っている。昨年までに16回の研究会の開催を重ね、参加施設は滋賀県内26施設まで増加している。2009年4月からは、参加施設にデータ登録を依頼し、解析を行っており、2016年までで約5300例のデータが集積されている。これらのデータをもとに県内のヘルニア診療の特長や各施設間のヘルニア診療の違いなどを全国規模の学会などで発表している。今後も年1回の予定で開催し、エキスパートによる講演会と演題発表の形式で継続予定であるが、現在のデータベースで評価できていない再発や慢性疼痛などの合併症のデータ収集できないか模索中である。ネガティブなデータを含めて、各施設にフィードバックする事でより充実した質の高いヘルニア診療が行なっていけるのではないかと考えられる。

キーワード 滋賀ヘルニア研究会 鼠径ヘルニア ヘルニア手術

### はじめに

鼠径部のヘルニアの手術は古くより行われてきた手術であり、その術式は、ヘルニア門の閉鎖と脆弱化した組織の補強が最も重要なところである。従来は、

ヘルニア修復術として、自身の組織を用いた修復が定型的な術式であった。1956年に初めてポリエステルを用いてヘルニア修復を行う術式が施行され、1959年にはポリプロピレンメッシュを用いた術式も施行された

Received: January 13, 2017. Accepted: March 6, 2017

Correspondence: 滋賀医科大学 外科学講座 消化器・乳腺・一般外科 森 毅

〒520-2192 大津市瀬田月輪町 t252m@belle.shiga-med.ac.jp

表 1. 滋賀ヘルニアセミナー、滋賀ヘルニア研究会の過去の開催実績

第1回 滋賀ヘルニアセミナー (2006年3月4日) 講師：聖路加国際病院外科 柵瀬信太郎先生	第10回 滋賀ヘルニア研究会 (2010年7月3日) 当番世話人：公立甲賀病院 岡本正吾先生 特別講演：東京慈恵会医科大学第三病院 諏訪 勝仁 先生
第2回 滋賀ヘルニアセミナー (2006年6月17日) 講師：みやざき外科・ヘルニアクリニック 宮崎恭介先生	第11回 滋賀ヘルニア研究会 (2011年7月23日) 当番世話人：草津総合病院 平野正満先生 特別講演：原三信病院 副院長・外科主任部長・日帰り手術センター長 江口 徹 先生
第3回 滋賀ヘルニアセミナー (2006年9月9日) 講師：神鋼病院外科 岡本正吾先生	第12回 滋賀ヘルニア研究会 (2012年6月30日) 当番世話人：済生会滋賀県病院 増山 守先生 特別講演：市立四日市病院 外科・手術部長 蜂須賀文博 先生
第4回 滋賀ヘルニアセミナー (2006年12月9日) 講師：NTT 東日本関東病院外科 伊藤 契先生	第13回 滋賀ヘルニア研究会 (2013年7月13日) 当番世話人：彦根市立病院 安田誠一先生 特別講演：聖路加国際病院 外科医長・ヘルニアセンター部長 柵瀬 信太郎 先生
第5回 滋賀ヘルニア研究会 (2007年7月7日) 講師：帝京大学医学部教授 沖永功太先生	第14回 滋賀ヘルニア研究会 (2014年6月28日) 当番世話人：東近江医療センター 外科 岡内 博先生 特別講演：九州大学大学院 消化器・総合外科 外科集学的治療学准教授 川中 博文 先生
第6回 滋賀ヘルニア研究会 (2008年3月1日) 当番世話人：豊郷病院 外科 花澤一芳先生 講師：涼友会執行クリニック 執行友成先生	第15回 滋賀ヘルニア研究会 (2015年6月27日) 当番世話人：野洲病院 西村彰一先生 特別講演：西陣病院 外科 高木 剛 先生
第7回 滋賀ヘルニア研究会 (2008年9月20日) 当番世話人：市立長浜病院 外科 東出俊一先生 講師：聖路加国際病院外科 柵瀬信太郎先生	第16回 滋賀ヘルニア研究会 (2016年6月25日) 当番世話人：独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院 八木俊和先生 特別講演：京都市立病院 外科 副部長 小濱 和貴 先生
第8回 滋賀ヘルニア研究会 (2009年3月7日) 当番世話人：近江草津病院 横田 徹先生 特別講演：東京慈恵会医科大学講師 三澤 健之 先生健之 先生	
第9回 滋賀ヘルニア研究会 (2009年12月12日) 当番世話人：大津市民病院 柳橋 健先生 特別講演：NTT 東日本関東病院 外科 主任医長 伊藤 契 先生	

1)。1970年代に入り Lichtenstein によってポリプロピレンメッシュを用いた術式が積極的に導入され”tension-free repair”として報告された2)。その後、メッシュを用いた術式は全世界に広がり、現在では標準術式となっている。多くの外科医にとって鼠径ヘルニア手術は外科医の登竜門的な手術と認識されており、ほとんどの外科医が初めて執刀する手術のひとつでもある。しかしながら、現在では多種多様なメッシュが開発・使用されるようになり、前方アプローチと呼ばれる鼠径部の皮膚側から修復する術式だけでなく、腹腔鏡下に腹腔内から修復する術式も増えてきており、ヘルニアの手術も複雑になってきている。このような状況でヘルニア手術のエキスパートらが中心となり日本の腹部のヘルニア疾患に関する診療の充実・研究の進歩発展と普及させるため、2003年に日本ヘルニア研究会が発足した。2008年には日本ヘルニア

学会 (Japanese Hernia Society ; JHS) として再編され、現在、会員数も 1000 名を超える規模となってきた。日本国内のヘルニア診療状況の変遷にともない、滋賀県内でも、ヘルニア診療に特化した研究会の設立が企画されるようになった。

### 滋賀ヘルニア研究会のたちあげ

滋賀県内の外科医有志により、滋賀県内におけるヘルニア診療の充実を目的とした研究会の設立が企画された。その設立に先立ち、まずは滋賀県内のヘルニア診療の意識を高めるために、2006年3月からヘルニアセミナーとして、国内のヘルニア診療に関する著名な講師を招聘し、講演会・勉強会が企画された(表1)。その後、セミナー参加者を中心に、2007年7月7日に正式に研究会として設立されることになった。参加施設は滋賀県内でヘルニア診療を行っている主だった病院 20 施設で、その後少しずつ参加施設

表 2. 現在の滋賀ヘルニア研究会参加施設と世話人一覧

日野記念病院	東田 宏明	豊郷病院	藤野 光廣
能登川病院	内藤 弘之	長浜赤十字病院	井 武和
市立長浜病院	神田 雄史	彦根中央病院	下松谷 匠
	東出 俊一	琵琶湖大橋病院	丹後 泰久
近江八幡市立総合医療センター	矢田 善弘	守山市民病院	都築 英之
大津市民病院	中野 且敬	野洲病院	長谷川 均
大津赤十字病院	橘 強		河崎 千尋
草津総合病院	吉川 明		蔦本 慶裕
	平野 正満		渡邊 信介
甲南病院	一瀬 真澄		西村 彰一
	田中 久富	高島市民病院	岡内 博夫
公立甲賀病院	神谷 純広	独立行政法人国立病院機構崇善楽病院	伊藤 鉄夫
東近江市立総合医療センター	井田 健治	東近江市立蒲生病院	林 直樹
湖東記念病院	目片 英洋	彦根市立病院	生 駒大
済生会滋賀県病院	籠山 三守		安田 誠一
	藤山 准真	独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院	李 正燧
滋賀県立成人病センター	原田 英樹	長浜市立湖北病院	来見 良誠 (代表世話人)
		滋賀医科大学外科	八木 俊和
			佐藤 浩一郎
			清水 智治
			森 毅

は増加していった。代表世話人を豊郷病院の花澤一芳先生にお願いし、滋賀医科大学外科学講座に事務局を置くことになった。2008年からは当番世話人を決め、年1回、講演会と参加施設からヘルニア診療に関する一般演題を募り、ヘルニア診療について発表・意見交換を行うようになった(表1)。

滋賀ヘルニア研究会の発足以降、本研究会のような地域的活動が活発化され、日本各地で地域単位の研究会が発足してきた。現在では、都道府県単位以上規模の地域的研究会が、先に述べた日本ヘルニア学会の地方支部として18の団体が認定され、日本ヘルニア学会を中心とした活動を行われるようになってきている。この中で、滋賀ヘルニア研究会は、最も創立が早かった地方支部のひとつである。

## 滋賀ヘルニア研究会の現状

昨年までに16回の研究会の開催を重ね、参加施設は滋賀県内26施設まで増加している(表2)。2009年4月からは、参加施設に鼠径ヘルニアの分類、麻酔方法、術式、手術時間、入院期間などのデータ登録を依頼し、後方視的に解析を行っている。ID、氏名などの個人情報にはデータ登録に含めず、解析もインターネットの接続のないパソコンで処理し、データは特定のUSBでのみ保存するなど、データの取り扱いには細心の注意を払っており、2016年までで約5300例のデータが集積されている。これらのデータをもとに滋賀県内のヘルニア診療の特長や各施設間のヘルニア診療の

違いなどを検討し、全国規模の学会などで成果を発表している(表3)。

## 滋賀ヘルニア研究会からの成果報告の紹介

表3に示すように、多くの成果発表を行ってきている。2010年には、2009年より集計した300例のデータを分析し、県内ではダイレクターゲル法が全国平均と比較して多い傾向にあることや、ヘルニア分類によって術式を変えている事などを報告した。また、2014年には、125例の再発鼠径ヘルニアに対する手術症例について検討し、初発症例と比較し手術時間が長い事や術式として、プラグメッシュ法が多く採用されていることなどを発表した。さらに、2016年には、消化器外科学会のディベートセッションで、7年間、4700症例を検討し、最近全国的に増加している腹腔鏡下ヘルニア修復術が滋賀県内においても、2009年の10%程度から2015年20%まで増加していることや、前方アプローチ手術と腹腔鏡下手術とを比較し、腹腔鏡下手術は有意に手術時間が長い事などについて報告している。

## 滋賀ヘルニア研究会の今後

今後も年1回の予定で開催し、エキスパートによる講演会と演題発表の形式で継続予定である。また、データ登録では参加施設の術前・術中のデータは十分に集積できている。ここ数年、腹腔鏡下手術が増加しており、今後もさらに増えることが予想され、症例を蓄積していくことにより手術術式の変遷などヘルニア診療の歴史を見ていくことが出来ると考え、今後も集積

表3. 滋賀ヘルニア研究会からの成果報告一覧

- | (学会発表)   | (学会発表)   |
|--|--|
| 1. 第9回滋賀ヘルニア研究会(平成2010年12月12日)<br>「滋賀ヘルニア研究会参加施設におけるヘルニア分類改訂後のヘルニア手術症例の検討」<br>滋賀ヘルニア研究会 森 毅(滋賀医科大学外科学講座)   | 6. 第9回日本ヘルニア学会学術集会(平成2011年8月1日)<br>滋賀ヘルニア研究会における日本ヘルニア学会・鼠径ヘルニア分類2009年版と術式の検討<br>滋賀ヘルニア研究会(滋賀医科大学 外科学講座)<br>清水智治、森 毅、岡本 正吾、柳橋 健、下松谷 匠、田村 淳、横田 徹、平野正満、内藤弘之、渡邊 信介、東出俊一、山本 明、林 直樹、花澤一芳、来見良誠、谷 徹 |
| 2. 第8回日本ヘルニア学会学術集会(平成2010年4月17日)ハイブリッドポスター(HP-057)<br>滋賀ヘルニア研究会参加施設におけるヘルニア分類改訂後の成人鼠径ヘルニア手術症例の検討<br>滋賀ヘルニア研究会(滋賀医科大学 外科学講座)<br>清水智治、柳橋健、岡本正吾、林直樹、辻雅衛、庄林智、岡内博、森毅、内藤弘之、横田徹、眞本慶裕、西村彰一、花澤一芳、来見良誠、谷 徹 | 7. 第9回日本ヘルニア学会学術集会(平成2011年8月2日)共通シンポジウム<br>滋賀ヘルニア研究会および当院での鼠径ヘルニア手術の麻酔法の検討<br>滋賀医科大学 外科学講座、滋賀ヘルニア研究会<br>森 毅、来見良誠、張 弘富、清水智治、久保田良浩、阿部 元、岡本 正吾、柳橋 健、下松谷 匠、田村 淳、横田 徹、平野正満、内藤弘之、花澤一芳、谷 徹          |
| 3. 第35回 日本外科学系連合学会(平成2010年6月18日) ワークショップ9 (WS-9)<br>「ヘルニア分類に基づく成人鼠径ヘルニアの手術術式の検討」<br>滋賀ヘルニア研究会(滋賀医科大学 外科学講座)<br>清水智治、下松谷 匠、眞本慶裕、内藤弘之、横田 徹、渡邊信介、川口 晃、東出俊一、田村 淳、平野正満、増山 守、豊田英治、花澤一芳、来見良誠、谷 徹        | 8. 第11回日本ヘルニア学会学術集会(平成2013年5月10日)<br>滋賀ヘルニア研究会における再発鼠径ヘルニアに対する手術症例の検討<br>森 毅、清水智治、柳橋 健、増山 守、下松谷 匠、東出俊一、吉川 明、安田 誠一、横田 徹、眞本 慶裕、来見良誠、花澤一芳、谷 徹   |
| 4. 第65回日本消化器外科学会総会(平成2010年7月16日)<br>滋賀ヘルニア研究会参加施設におけるヘルニア分類改訂後の成人ヘルニア手術症例の検討<br>森 毅、柳橋 健、岡本 正吾、林 直樹、辻 雅衛、庄林 智、清水 智治、花澤 一芳、来見 良誠、谷 徹  | 9. 第38回 日本外科学系連合学会(平成2013年6月6日)<br>滋賀ヘルニア研究会における再発鼠径ヘルニアに対する手術症例の検討<br>森 毅、清水智治、柳橋 健、増山 守、下松谷 匠、東出俊一、吉川 明、安田 誠一、横田 徹、眞本 慶裕、来見良誠、花澤一芳、谷 徹   |
| 5. 第72回日本臨床外科学会総会(平成2010年11月)<br>「成人鼠径部ヘルニア分類改訂版の検証と手術術式の検討」<br>滋賀ヘルニア研究会(滋賀医科大学 外科学講座)<br>清水智治、来見良誠、花澤一芳、森 毅、柳橋 健、岡本正吾、下松谷 匠、眞本慶裕、内藤弘之、林 直樹、横田 徹、渡邊信介、川口 晃、川崎千尋、谷 徹                             | 10. 第65回日本消化器外科学会総会(平成2014年7月18日)<br>滋賀ヘルニア研究会における再発鼠径ヘルニア手術症例の検討<br>森 毅、清水智治、柳橋 健、増山 守、下松谷 匠、東出俊一、吉川 明、安田 誠一、横田 徹、眞本 慶裕、来見良誠、花澤一芳、谷 徹   |

## (論文発表)

「日本ヘルニア学会「鼠径部ヘルニアの分類(改訂版)」と手術術式の検討」  
滋賀ヘルニア研究会  
清水智治、来見良誠、花澤一芳、森 毅、村田 聡、柳橋 健、岡本正吾、下松谷 匠、眞本慶裕、内藤弘之、林 直樹、横田 徹、渡邊信介、川口 晃、藤 洋三、神谷純広、都築英之、庄林 智、川崎千尋、鈴木雅之、谷 徹

を続けていく予定である。一方、腹腔鏡下手術の増加により、前方アプローチに比べ、再発が増えていることが報告されている<sup>3)</sup>。現在のデータベースでは、ヘルニア手術の結果やヘルニア診療の質については評価できていない。鼠径ヘルニアは良性疾患であるため、第一に再発させないこと、さらに術後の慢性疼痛などの合併症を少なくする事が重要である。今後、現在行っているデータ集積で調査できていない、術後の再発、合併症などを参加施設からデータ収集できないか模索中である。これらのデータは、術後にある程度観察期間が必要なため、データ収集が煩雑になることと、再発・合併症は各施設にとってはあまり表に出したくないデータであるため、十分なデータが集まらない可能性がある。Webでの匿名のデータ登録のような、簡便でアクセスしやすいデータ登録を工夫していく必要がある。ネガティブなデータを含めて、各施設にフィードバックする事でより充実した質の高いヘルニア診療がおこなっていただけるのではないかと考えられる。

## 文献

- [1] DeBord, JR : The historical development of prosthesis in hernia surgery. Surg Clin North Am. ;78(6):973-1006,1998
- [2] Lichtenstein IL Hernia repair without disability. 1<sup>st</sup> ed C.V. Mosby, St Louis, 1970
- [3] 北野 正剛, 山下 裕一. 内視鏡外科手術に関するアンケート調査-第12回集計結果報告-. 日本内視鏡外科学会雑誌, 19:495-640, 2014